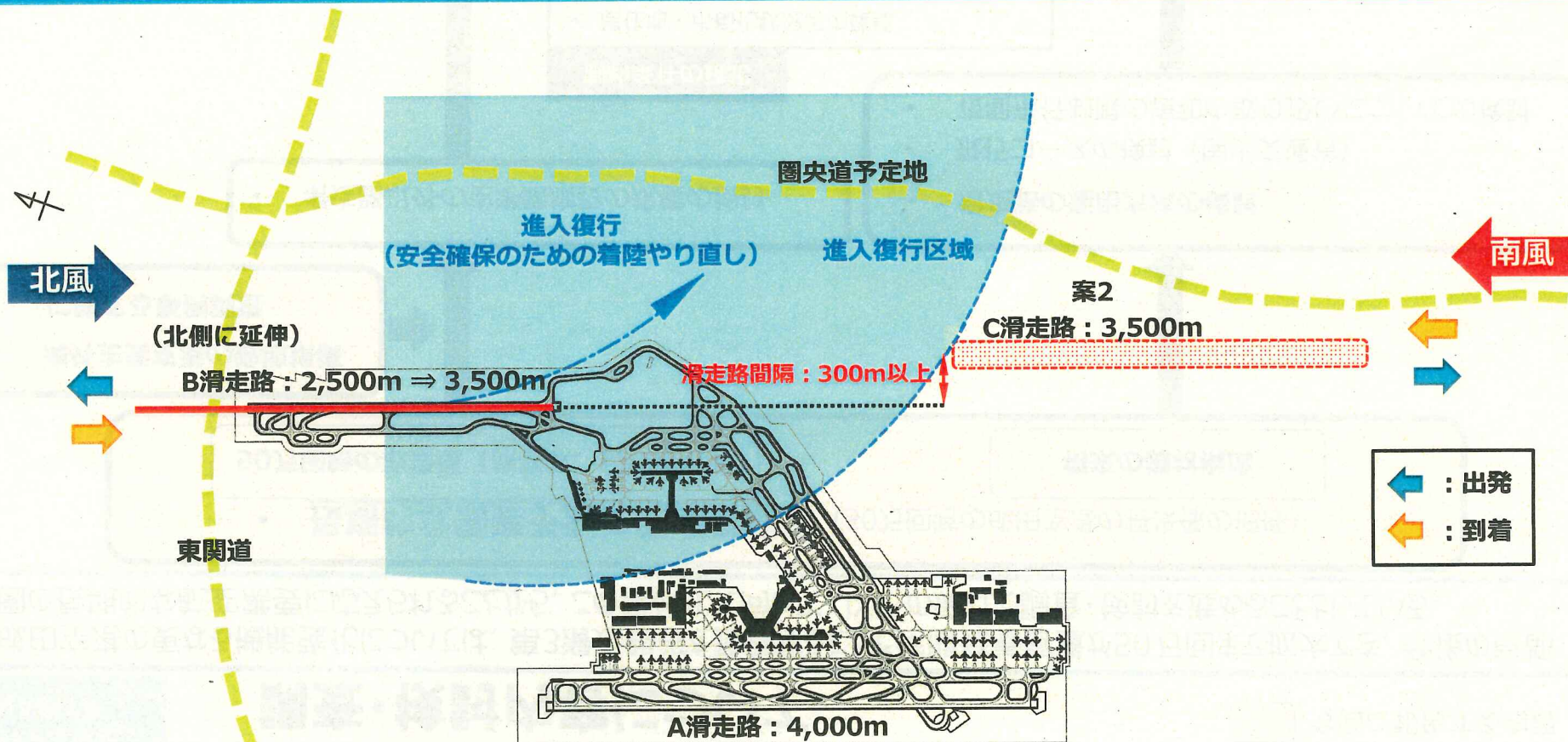


1. 前回の四者協議会でさらに調査・検討を進めていくこととされた内容

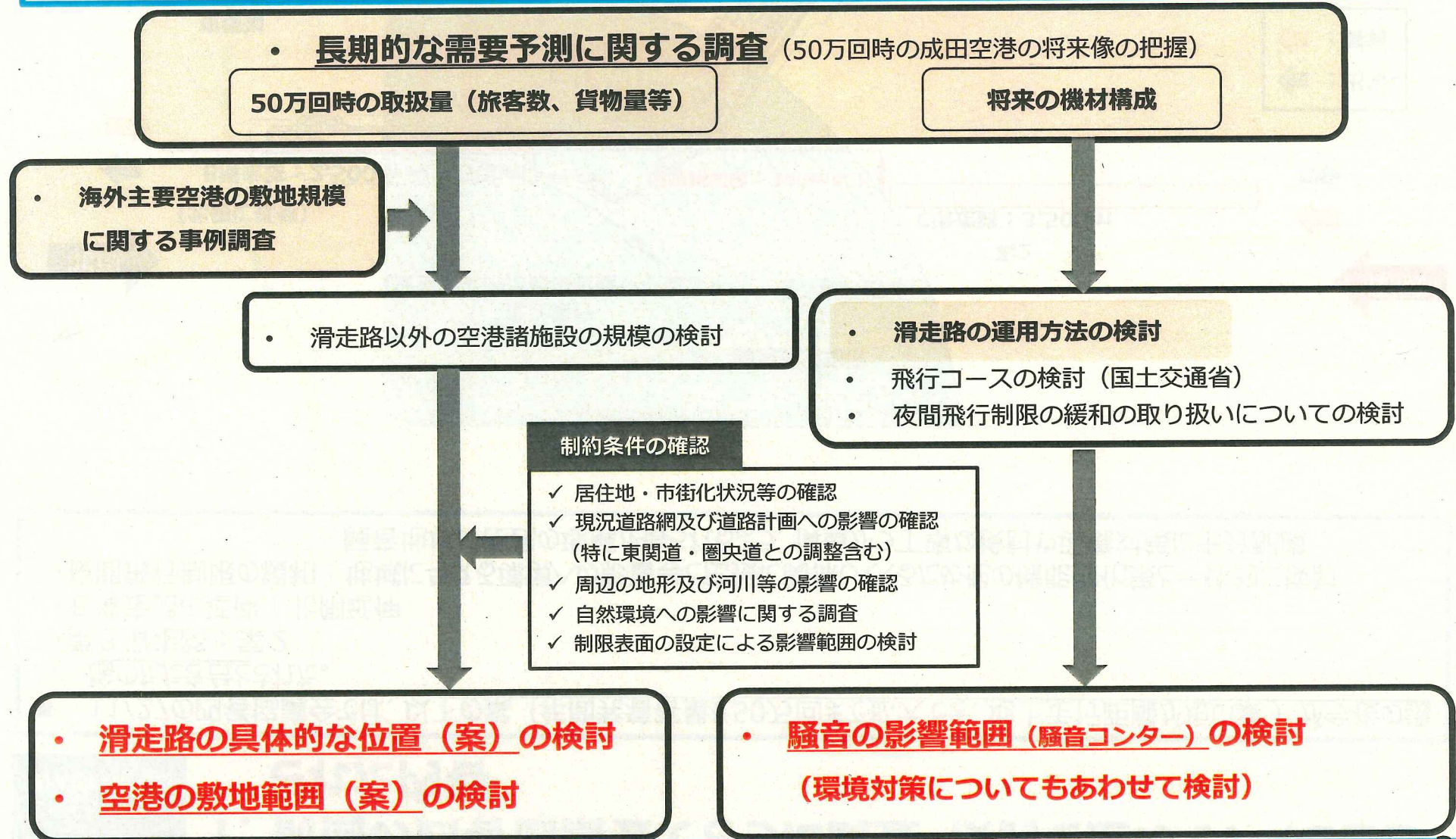
- 11/27の四者協議会では、以下の案（年間発着容量を50万回まで拡大でき、地上走行距離が短い案）が今後の議論のたたき台とされた。
 - ・第3滑走路：案2
 - ・B滑走路の延伸：北側延伸
 - ・夜間飛行制限の緩和：地域に与える環境への影響等と密接に関係してくるため他の機能強化策と一体的に検討
騒音地域の住民の理解が得られるよう、慎重かつ丁寧な検討や環境対策に十分配慮



2. 更なる機能強化に向けて必要となる 調査・検討内容について

今回ご報告する内容

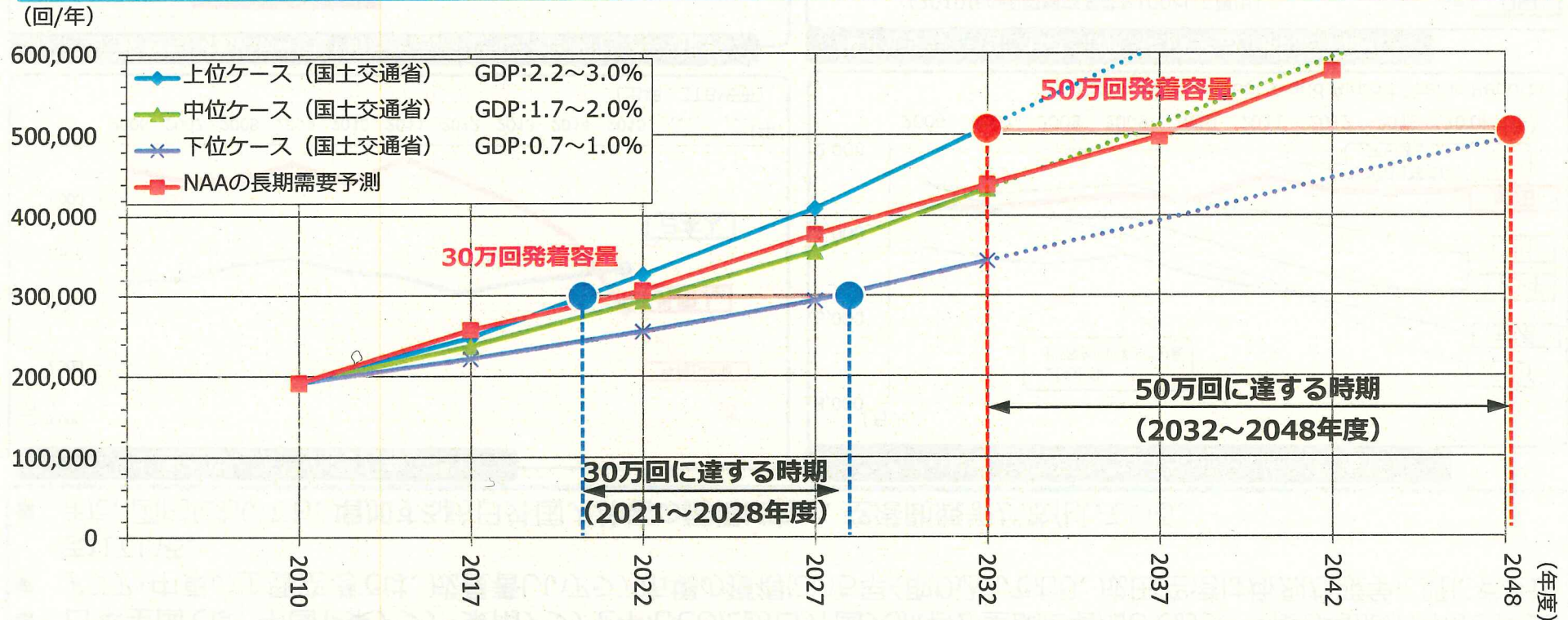
成田空港の更なる機能強化については、第3滑走路等を整備することで年間発着容量が50万回まで拡大でき、今後の首都圏の長期的な航空需要に応えられることから、この具体化に向けて、以下の流れで調査・検討を進めることとしている。



3. 成田空港における航空需要予測

3-1) 年間発着回数予測

- 国土交通省の示した首都圏空港の需要予測及びNAAにおいて試算した長期の需要予測は以下のとおり。
- 国及びNAAの予測によれば、成田空港の発着回数は2020年代には年間30万回を超え、2030年代初頭から2040年代後半には年間50万回に達すると予測される。
- さらにNAAの需要予測によれば発着回数が年間50万回に到達する際には、年間旅客数7,500万人、年間貨物取扱量300万トンになる見込み。
(現状実績は、年間発着回数23.5万回、年間旅客数3,800万人、貨物取扱量200万トン)



※ 羽田空港の発着回数は国内・国際旅客便の合計が現状発着枠の44.7万回と都心上空による3.9万回から深夜の国際便不使用枠を差し引いて試算

国土交通省の需要予測は2032年度までしか公表されていないため、2033年度以降はそれ以前と同じ伸び率を使用して試算

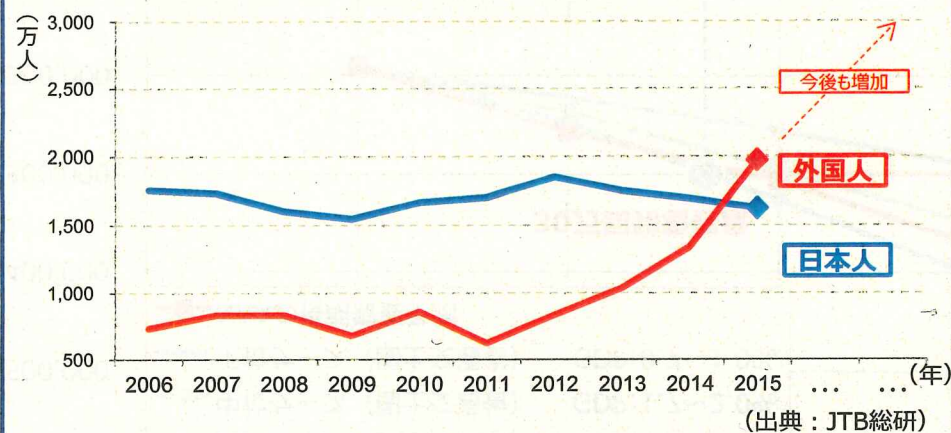
※ 貨物取扱量予測については、昨今の貨物動向を踏まえ、引き続き精査を実施

※ 現状実績：現時点における2015年度の取扱見込み

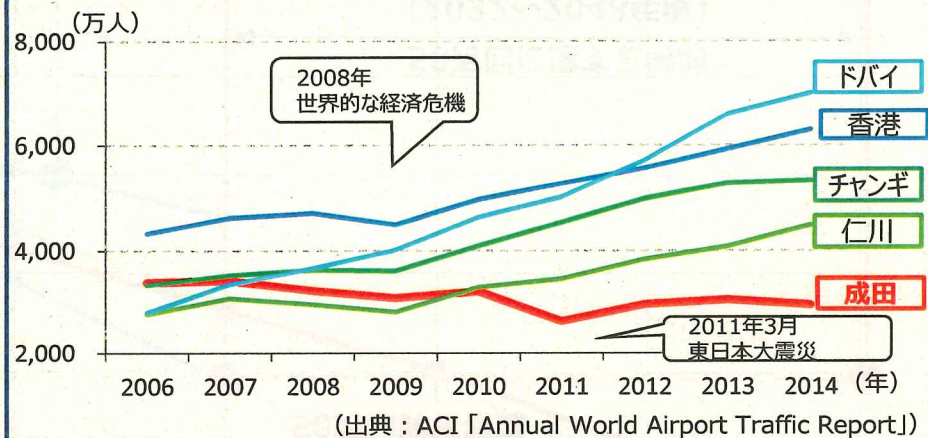
3. 成田空港における航空需要予測 3-2) 成田空港を取り巻く環境

- 日本全国では、中国や東アジア・東南アジアを中心とした訪日外国人旅客が堅調に増加しており、今後も増加が期待される。
- アジア・中東の主要空港では、成長著しいアジア市場の獲得にいち早く取り込んでおり、成田空港は熾烈な競争に既に巻き込まれている。
- また、国内においても、増加する訪日外国人旅客の獲得に向け、空港間競争が激化している。

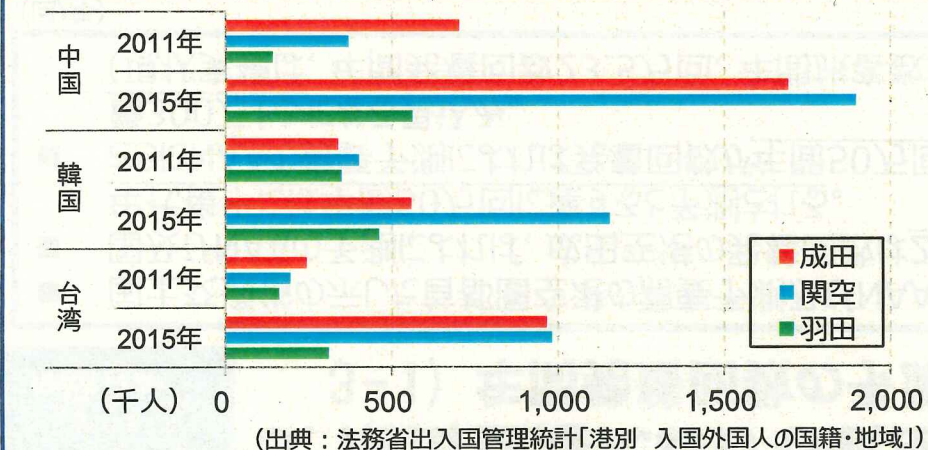
日本人出国者数と訪日外国人数の推移



アジア・中東主要空港における国際線旅客数推移



国内主要空港における中国・韓国・台湾からの入国外国人人数推移



国内主要空港における国際線旅客数の伸び率推移

